

徴税人のザアカイ

ルカ 19章 1-10節

イエスはエリコに入り、町をとおられた。そこにザアカイという人がいた。この人は徴税人の頭で、金持ちであった。イエスがどんな人か見ようとしたが、背が低かったので、群衆に遮られて見る事ができなかった。それで、イエスを見るために、走って先回りし、いちじく桑の木に登った。そこを通り過ぎようとしておられたからである。イエスはその場所に来ると、上を見上げて言われた。「ザアカイ、急いで降りて来なさい。今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい。」ザアカイは急いで降りて来て、喜んでイエスを迎えた。これを見た人たちは皆つぶやいた。「あの人は罪深い男のところに行き、宿をとった。」しかし、ザアカイは立ち上がって、主に言った。「主よ、わたしは財産の半分を貧しい人々に施します。また、だれかから何かだまし取っていたら、それを四倍にして返します。」イエスは言われた。「今日、救いがこの家を訪れた。この人もアブラハムの子なのだから。人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである。」

説教

イエス一行がエリコの街に入ると群衆が押し寄せ、背の低い徴税人頭の金持ちザアカイはイエスをひとめ見たくて木に登ります。するとイエスは木によじ登ったザアカイに呼びかけ「泊めてくれ」といいます。よろこんだザアカイは「貯めこんだお金の半分を施します」と主イエスのまえで宣言すると、イエスはザアカイを祝福したという話です。このエピソードはルカの19章に記録されています。ところでルカ18章にも似たようなエピソードがあります。金持ちの議員がどうすれば救われますか？とイエスに教えを聞きにやってきます。イエスが全財産を施してからわたしに従いなさい、という議員は立ち去って行ったという話（ルカ18:18-23）です。

議員はイエスの忠告「持っている物をすべて売り払い、貧しい人々に分けてやりなさい」には従えませんでした。一方、ザアカイは財産の半分を施しにあて、更にだまし取っていたお金は4倍にして返すと自分からいいだしています。

議員とザアカイには共通点があります。それは二人とも大金持ちという点です。しかし二人の身分には「議員」と「徴税人」というおおきな違いがあります。イエスを訪ね、教えをこゝ議員に対して、一介の徴税人ザアカイがイエスにアポを取れるはずもなく、一目だけでもイエスを見ようと木登りをしています。しかし、家に泊まるぞと声をかけられたのはザアカイで、議員はイエスと交わることなく立ち去りました。

このように福音に記録されている「議員」と「ザアカイ」を比べてみるとイエスは徴税人ザアカイをずいぶんと「ひいき」している印象が残ります。イエスが名前と呼ぶのはザアカイで、議員は名でよばれることなくただの議員さんです。イエスは身分の低いものの味方だからなののでしょうか。

どうしてだろうと考えていたら、第一朗読（知恵の書 11:22）の「主よ、御前では、全宇宙は秤（はかり）をわずかに傾ける塵、朝早く地に降りる一滴の露にすぎない」に思いあたりました。イエスさまは宇宙的なスケールの神の御子です。議員にしろ、ザアカイにしろイエスからすれば二人ともに「一滴の露」です。

イエスさまはそれぞれに必要なことをしているのです。議員を軽んじたり、ザアカイだけをひいきしているのではないのでしょうか。わたしたちは神のみ心をそれぞれの事情、自分の都合の中でしか受け取ることができない宿命を背負っています。それだからこそ耳をすませて主の声を聞き取りましょう。

主よ、あなたは罪に陥る者を少しずつ懲らしめ、罪のきっかけを思い出させて人を諭される。悪を捨ててあなたを信じるようになるために。（知恵 12:2）

(参考)

第一朗読 知恵の書 11:22-12:2

主よ、御前では、全宇宙は秤（はかり）をわずかに傾ける塵、朝早く地に降りる一滴の露にすぎない。全能のゆえに、あなたはすべての人を憐れみ、回心させようとして、人々の罪を見過ごされる。あなたは存在するものすべてを愛し、お造りになったものを何一つ嫌われない。憎んでおられるのなら、造られなかったはずだ。あなたがお望みにならないのに存続し、あなたが呼び出されないのに存在するものが果たしてあるだろうか。命を愛される主よ、すべてはあなたのもの、あなたはすべてをいとおしまれる。あなたの不滅の霊がすべてのものの中にある。主よ、あなたは罪に陥る者を少しずつ懲らしめ、罪のきっかけを思い出させて人を諭される。悪を捨ててあなたを信じるようになるために。
